

本時の学習（見通し3）（11/11）

- 1 ねらい 一人一人が考えた「草津町の将来像」を紹介し合う中で、草津町を多面的にとらえる。
- 2 準備 教師 前時に使った学習プリント（「こんな草津町になってほしいな わたしの考えた将来の草津町」）
封筒、切手（取材先へ子供たちが考えた将来像を送るため）
- 3 展開

学習活動	時間	学習への支援及び留意点	評価
1 本時の学習活動を確認する。	2		
自分たちが考えた「草津町の将来像」を紹介し合おう！			
2 発表の仕方を確認する。 発表場所 多目的室 発表方法 全体を2グループに分けて行う。 	5	○6、7時に行ったポスターセッションと同じやり方で行う。 ○前回のポスターセッションを振り返り、発表の仕方で自分として改善したいところはどこかを考えるようにする。 ○この「将来像を考えて発表し合う」活動は、すべての児童にとって発展的な学習活動である。一つの正解があるのではなく、草津町についての自分の追究を振り返り、違う見方や新しく知った見方でとらえ直すのが目的である。したがって、どれが一番よい「将来像」かを決めるためにするのではなく、仲間の発表を聞く中で自分にはなかった考えを知るために行うということを確認する。	ア②（興味・関心） 草津町のもつ独自性やよさに着目し、群馬県（草津町）に対する誇りと愛情をもとうとしているかどうかを、文章や絵で表された草津町の将来像を分析したり、自分の考えを発表する姿、自分たちで考えた将来像をこのあとどうするかについての発言から評価する。
3 ポスターセッションを行う（前半）。 	15	○聞き手は、発表者が草津町のどんな特色（面）を取り入れて「草津町の将来像」を描いたのかを考えながら聞くようにする。	
4 ポスターセッションを行う（後半）。	15	○聞き手を発表者を交代して行う。	
5 発表を聞いて特に印象に残った「草津町の将来像」を紹介し合う。	5	○なるほど、と思った「草津町の将来像」を紹介し合う。紹介された将来像は草津町のどんな特色（面）を取り入れて考えたのかを指導者は補足説明することにより、根拠のあることが大切であるということを全体の児童に伝える。	
6 本時の学習を自己評価する。 ・次時は低地のくらしの様子ということで、板倉町を学習していくことを知る。	3	○学習する前と学習した後で草津町に対する考えたかがどう変わったかという観点で今までの学習を振り返る（文章）。	